

WORKING WITH TANIUM: CORE

コースの内容

Working With Tanium:Core は、Tanium Platform/Console、Interact、Trends、Connect モジュールをカバーするセッション (トレーニングバンドル) で構成されています。このコースを修了すると、Tanium Platform / コアモジュールの設定やトラブルシューティングなどの機能を使えるようになります。

このコースでは、ビジネスのユースケースを掘り下げ、エンドポイントの分析、トレンドの可視化、データのエクスポート、設定や連携の設定など、モジュールの機能を活用して特定の目的に対応するための方法を学習します。実習では、インタラクティブなラボを使用します。

実施形式



インストラクタ
(ILT)



バーチャル
インストラクタ
(VILT)



ウェブベース
トレーニング
(WBT)

実施形式と所要時間

ILT/VILT: 2 日間 | WBT: 4~6 時間

受講要件

Tanium 認定資格 TCO (Tanium Certified Operator) の取得を推奨
([Tanium 認定資格の情報](#))

受講対象

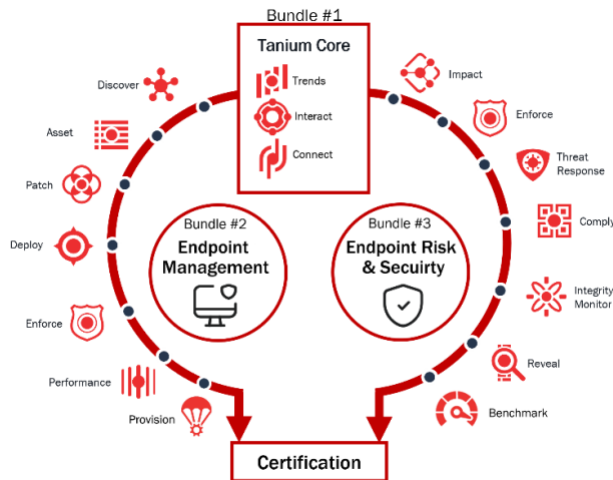
Tanium の操作に精通したユーザで、Tanium Core Platform に関する知識を広げ、Tanium Console、Interact、Trends、Connect の操作や用途をより深く理解したい方

お申し込み方法

このトレーニングは、新規または既存のお客様にご購入いただけます。トレーニングに関するお問合わせやお見積りは、Tanium/パートナーの担当者にご連絡ください。担当者がご不明な場合は、メールで training@tanium.com 宛にご連絡ください。

WORKING WITH TANIUM シリーズ

Working With Tanium: Core は、2つの専門学習パス、Endpoint Management と Endpoint Risk & Security の基礎となるコースです。各学習パスには、Tanium の各 Module についてより詳細を学ぶためのセッション (トレーニングバンドル) が含まれており、上級レベルの認定資格の取得に向けて準備ができます。



コースの目的

PLATFORM & CONSOLE

- Tanium Platform の各アーキテクチャを比較する
- Client Management をインストールする
- Endpoint Configuration をデプロイする
- Console のメリットを理解する
- Console の主なコンポーネントを理解する
- Console/モジュールをインストールし設定する
- 一般的なエラーに対応する

INTERACT

- Interact のメリットを説明する
- Interact のユースケースを特定する
- Interact の主なコンポーネントを理解する
- Interact を設定して使用する
- 一般的なエラーに対応する

TRENDS

- Trends のメリットを説明する
- Trends のユースケースを特定する
- Trends の主なコンポーネントを理解する
- Trends を設定して使用する
- 一般的なエラーに対応する

CONNECT

- Connect のメリットを説明する
- Connect のユースケースを特定する
- Connect の主なコンポーネントを理解する
- Connect を設定して使用する
- 一般的なエラーに対応する

コース概要

PLATFORM & CONSOLE

- Tanium Cloud アーキテクチャ
- Tanium Appliance アーキテクチャ
- Tanium Windows アーキテクチャ
- Client Management
- Endpoint Configuration
- Console 概要
- Console の管理
- Console のカスタマイズ
- Console のトラブルシューティング

INTERACT

- 価値とメリット
- コンポーネント
- ユースケース
- アクションの管理
- RBAC の管理
- Tanium Data Service (TDS)
- 初期のトラブル対応
- 一般的な問題

TRENDS

- 価値とメリット
- コンポーネント
- ユースケース
- ソースとデータ収集
- Trends のエクスポート・インポート
- ボードの公開
- 初期のトラブル対応
- 一般的な問題

CONNECT

- 価値とメリット
- コンポーネント
- ソースの接続
- 送信先の接続
- 接続の頻度
- 参照変数
- データのフィルタリング
- 作業の順序
- ユースケース
- 接続失敗時のイベント生成
- 一般的な問題